

2 自殺死亡率の推移

人口10万人当たりの自殺者数（以下「自殺死亡率」という。）の推移は、自殺者数の推移と同様の傾向を示している。

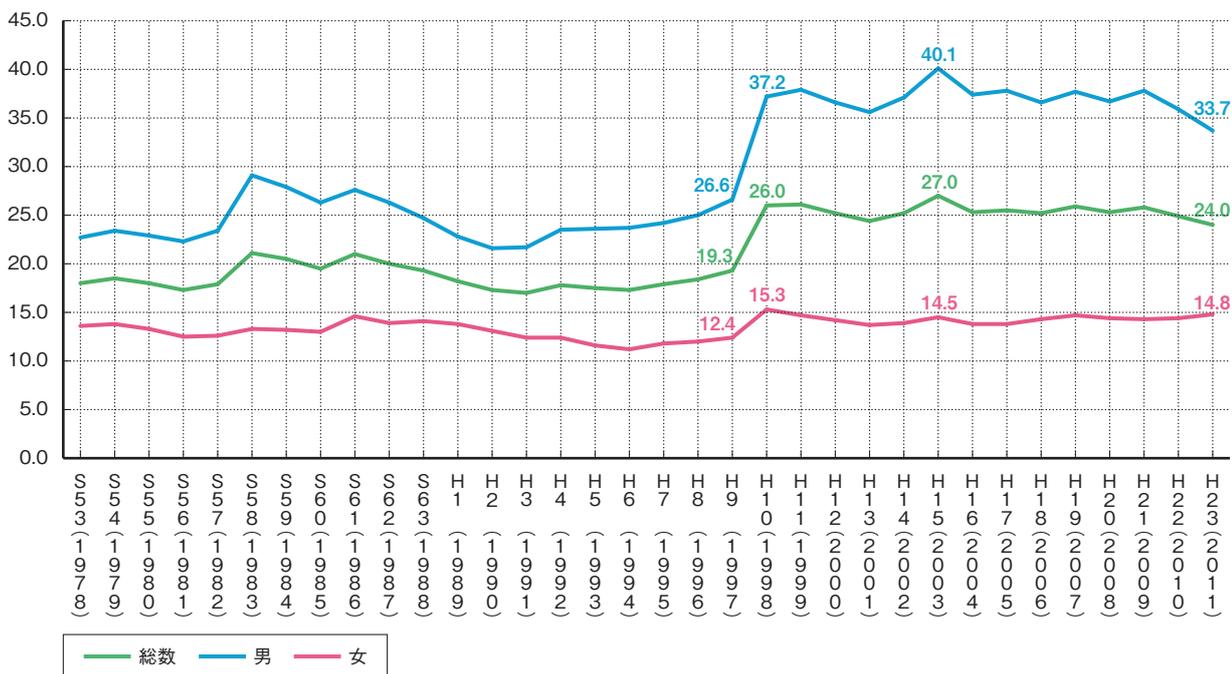
(1) 警察庁の自殺統計に基づく自殺死亡率の推移

自殺死亡率の推移について、自殺統計によれば（第1-3図）、昭和58年の21.1を最初のピークとした後、平成3年には17.0まで低下したが、10年には前年の19.3から26.0と急上昇し、以後15年の27.0をピークとして23年の24.0まで25前後の高い水準が続いている。

(2) 厚生労働省の人口動態統計に基づく自殺死亡率の推移

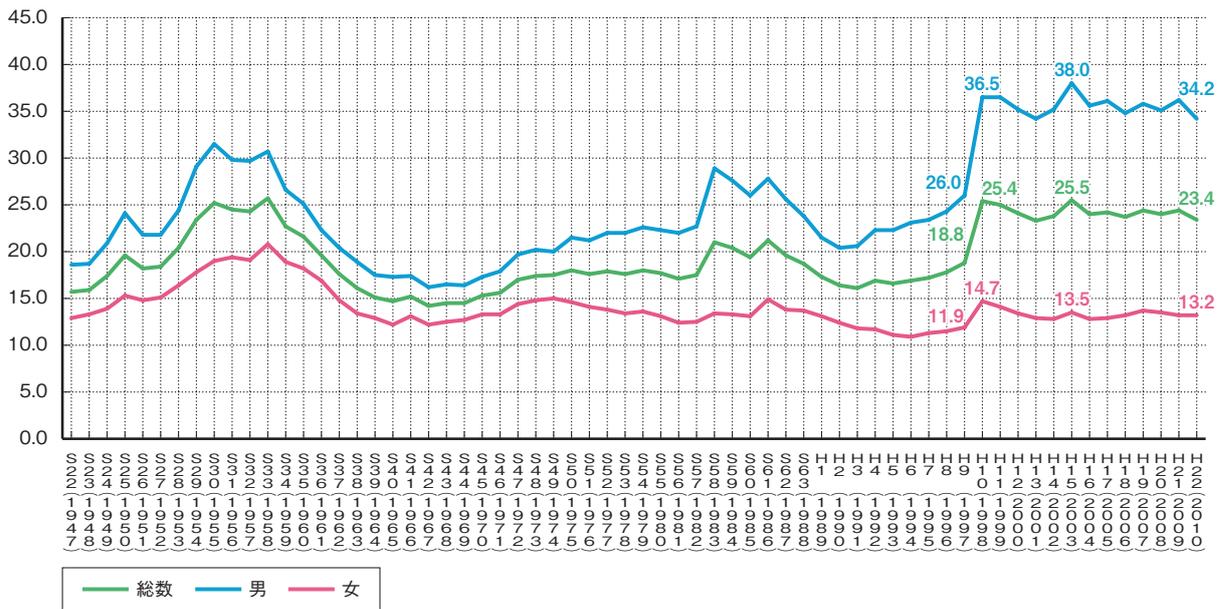
自殺死亡率の長期的な推移を見ると、人口動態統計によれば（第1-4図）、昭和33年の25.7を過去最大のピークとする最初の山を形成した後、40年代前半に15を下回る水準にまで低下した。その後、57年までは15~18の間で推移した後、緩やかに上昇し、61年の21.2をピークとする二つ目の山を形成した。平成元年からは16~19の間で推移していたが、平成10年に前年の18.8から25.4に急上昇し、以後15年の25.5をピークとし22年の23.4まで25前後の高い水準が続いている。

第1-3図 自殺死亡率の推移（自殺統計）



資料：警察庁「自殺統計」より内閣府作成

第1-4図 自殺死亡率の長期的推移（人口動態統計）



資料：厚生労働省「人口動態統計」

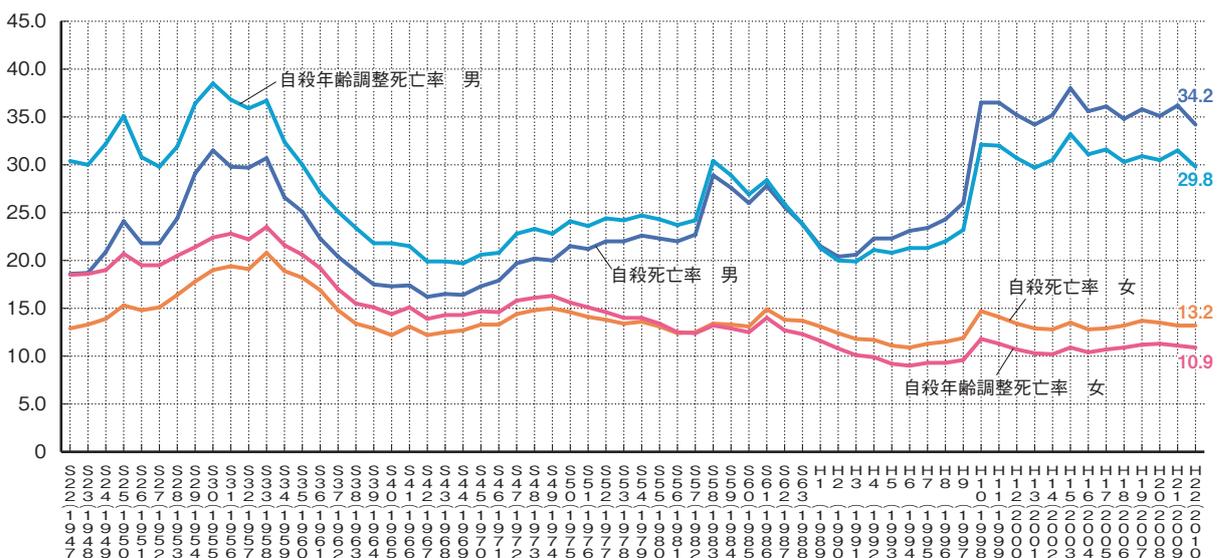
(3) 自殺年齢調整死亡率の推移

人口の年齢構成の変化の影響を排除した自殺年齢調整死亡率^{※1}を見ると（第1-5図）、男女とも基準年となる昭和60年頃を境に自殺死亡率と自殺年齢調整死亡率とが逆転し、自殺年齢調整死亡率の方が自殺死亡率よりも低

くなっている。これは、高齢化による人口構成の変化が影響しているものと考えられる。

なお、自殺死亡率の推移に対する高齢化の影響については、特集第3節2において詳細に検討しているので参照されたい。

第1-5図 自殺年齢調整死亡率の推移



注) 基準人口は、昭和60年人口モデルである。

資料：厚生労働省「人口動態統計」より内閣府作成

※1 「年齢調整死亡率」とは、年齢構成の異なる人口集団の間での死亡率や、特定の年齢層に偏在する死因別死亡率について、その年齢構成の差を取り除いて比較ができるように調整した死亡率をいう。